

令和5年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第8号 (果樹)

令和5年8月10日発表 (対象期間：令和5年8月10日～9月中旬)

1- (1)		かんきつ病害虫の現況と予報 (概要)		
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項	
かいよう病			<ul style="list-style-type: none"> ●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 	
黒点病			<ul style="list-style-type: none"> ●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。 	
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ●8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。 	
ミカンサビダニ			<ul style="list-style-type: none"> ●被害を確認してからの防除では遅いため、8月の基幹防除を徹底しましょう。 ●特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意します。 	
ナシマルカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月上旬中頃までに防除を行いましょう。 	
ヤノネカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月中下旬までに防除を行いましょう。 	
イセリアカイガラムシ				

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目 (最多年) と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目 (最少年) と同程度以下

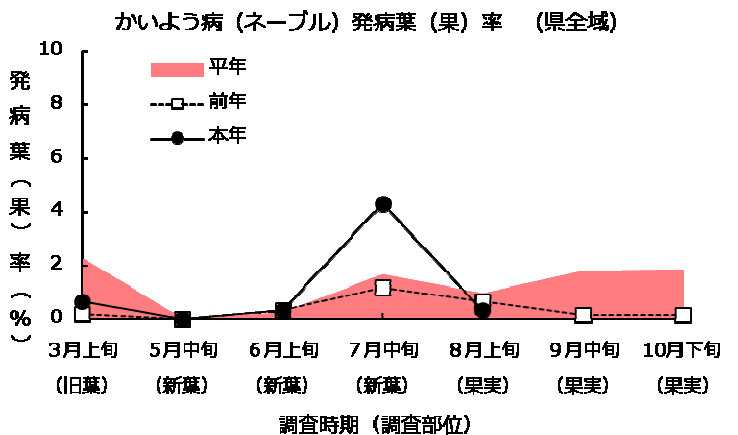
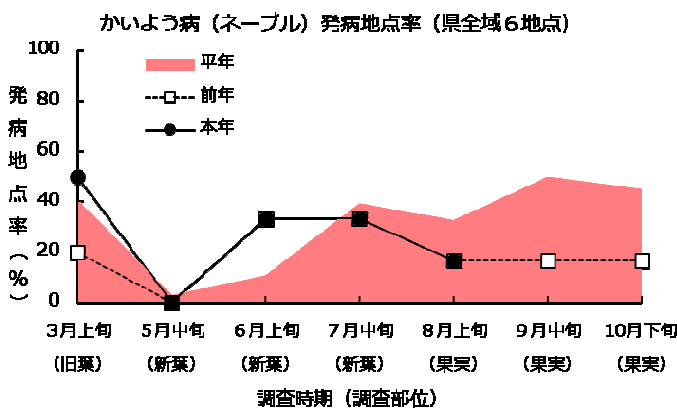
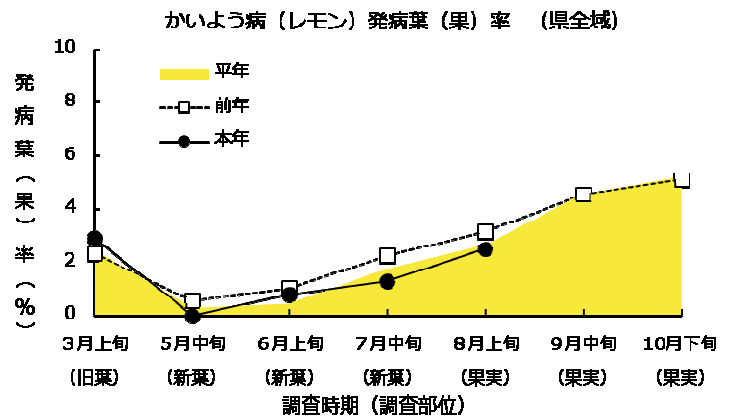
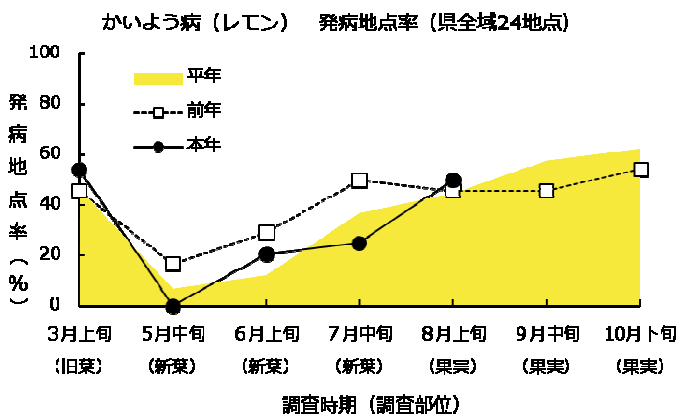
①かいよう病		現況	平年並	予報	やや多
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●巡回調査では、レモンでは発病果率2.5% (平年2.6%)、ネーブルでは発病果率0.3% (平年1.0%) であり、合計2.1% (平年2.3%) と平年並の発生でした。 ●発生地点率も、レモンで50.0% (平年44.7%)、ネーブルで16.7% (平年32.6%) であり、合計43.3% (平年42.2%) と平年並でした。 ●向こう1か月の気温は高い確率が60% (±)、降水量は多い確率が40%です (+)。 				
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因					

【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤 (コサイドなど) の散布を行う際には、クレフノン (希釈倍数:200倍) を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。



【巡回調査データ】



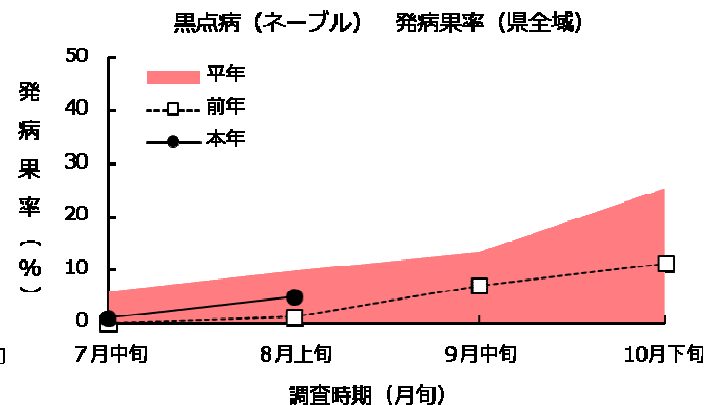
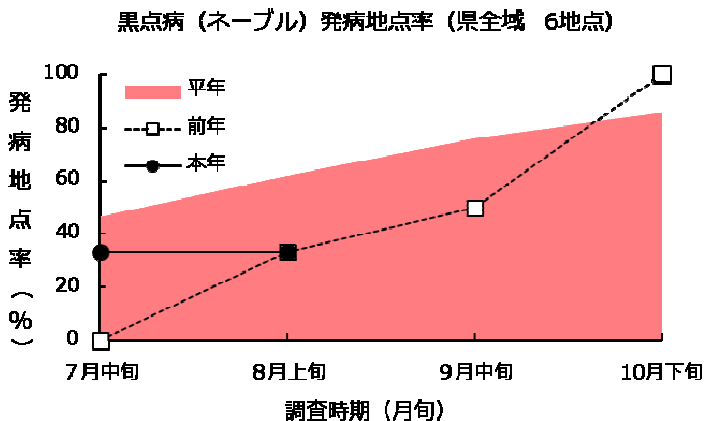
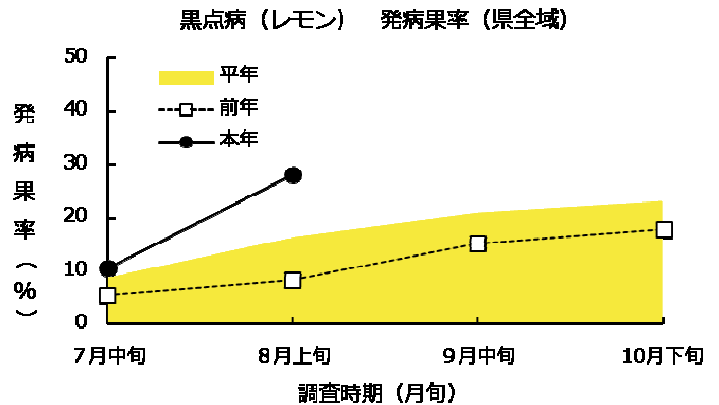
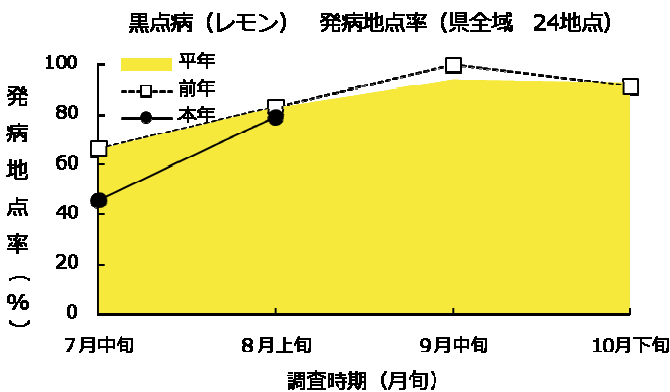
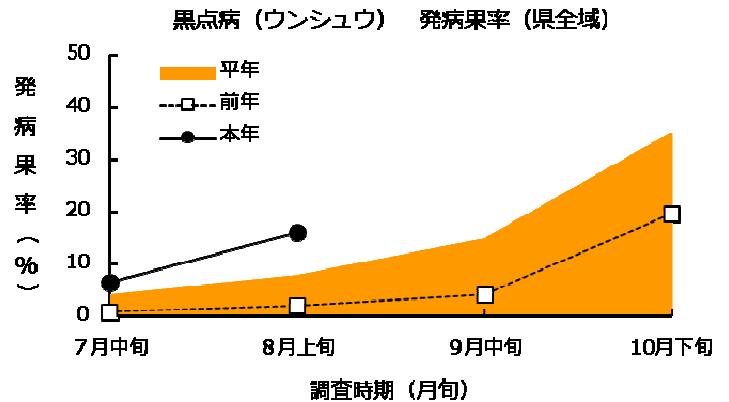
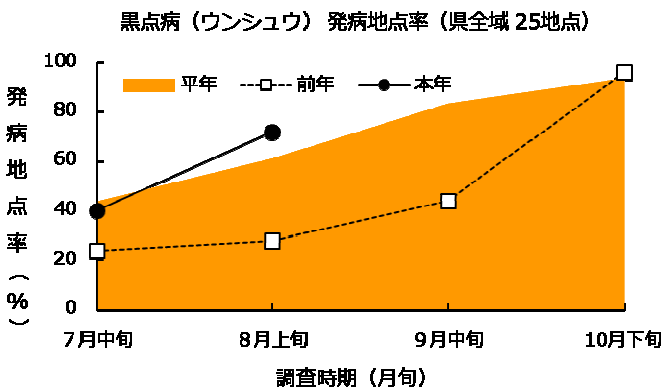
②黒点病	現況	ウンシュウ：多 レモン：多 ネーブル：並	予報	ウンシュウ：多 レモン：多 ネーブル：やや多
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●巡回調査の発病果率は、ウンシュウでは16.0%、レモンでは28.1%とやや高く（+）、ネーブルでは4.8%と平年並の発生でした（±）。 ●発病度は、ウンシュウ、レモンでは平年と比べて高く（+）、ネーブルでは平年並（±）でした。 ●向こう1か月の気温は高い確率が60%（±）、降水量は多い確率が40%です（+）。 			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因				

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。



【巡回調査データ】



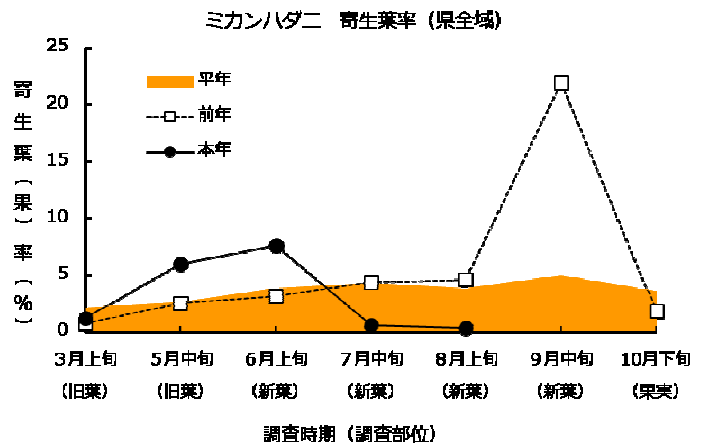
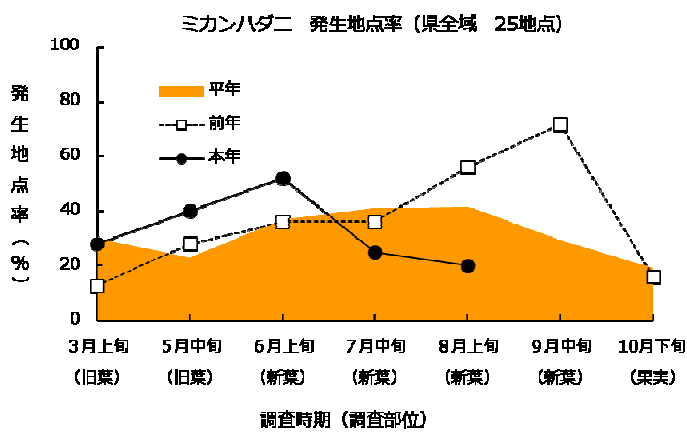
③ミカンハダニ	現況	少	予報	少
---------	----	---	----	---

予報の根拠	●巡回調査では、平年より少ない発生でした（-）。
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が60%（-）、降水量は平年より多い確率が40%です（-）。

【防除上の注意事項】

- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。
- 8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。

【巡回調査データ】



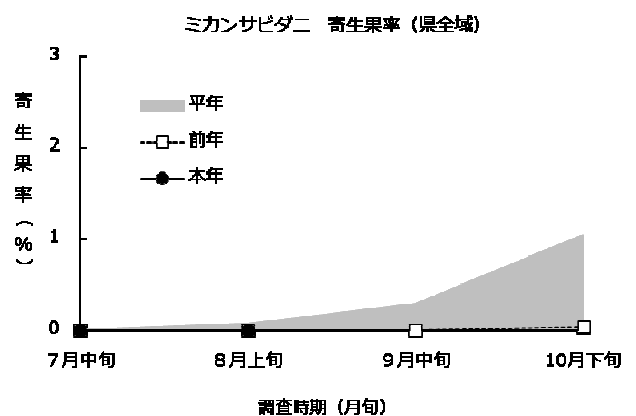
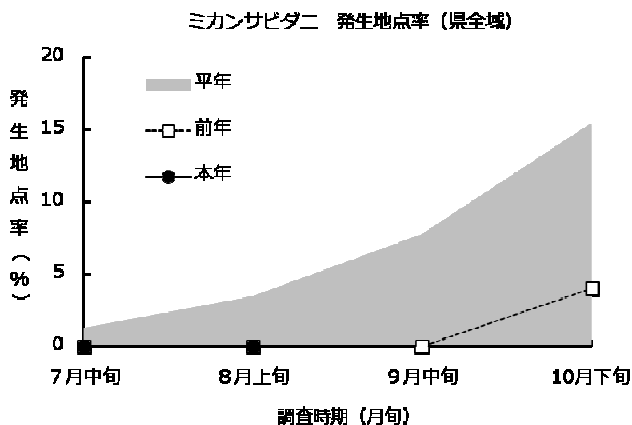
④ミカンサビダニ	現況	並	予報	並
----------	----	---	----	---

予報の根拠	●巡回調査では、発生を確認していません（±）。
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が60%（+）、降水量は多い確率が40%です（-）。

【防除上の注意事項】

- 被害を確認してからの防除では遅いため、8月の基幹防除を徹底しましょう。
- 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】



①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

少～並

予報

並

予報の根拠

- 県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、7月第5半旬の時点で、各地で少～並の結果となっています。
- 今後気温の上昇に伴い、飛来が増加する可能性もあるため、ほ場の定期的な見回りを行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。
- ※10月末までフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開するので、防除対策の参考にしてください。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因



A : チャバネアオカメムシ
B : ツヤアオカメムシ
C : クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～7月第5半旬）

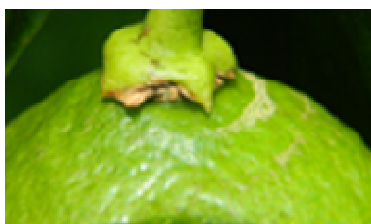
設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
東広島市安芸津町	46.0	少	531.2	1052.5	307.9
福山市神辺町	23.0	やや少	150.2	270.6	98.6
世羅郡世羅町	142.0	並	234.5	374.2	194.6
庄原市東城町	37.0	並	78.1	175.1	36.4
庄原市高野町	27.0	並	96.6	250.3	30.7

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成26、令和2、4年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成25年以降で、平成26、令和2、4年を除いた年の平均値を示す

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

- チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。
- 第5世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、8月14日から18日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**
- ※ 表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第5世代	第6世代
平年より高い (+1℃)	8月14日	8月31日
平年並	8月14日	9月1日
平年より低い (-1℃)	8月18日	9月6日

※生口島アメダスデータに基づく

(広島地方気象台 8月5日発表、8月5日から9月4日までの天候見通し)

- 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%です。降水量は、多い確率が40%、日照時間は、少ない確率が40%です(図1)。
- 週別の気温は、1週目は高い確率が70%、2～4週目は高い確率が50%です(図2)。

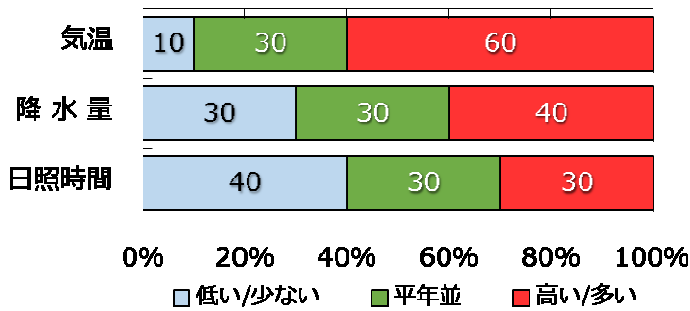


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

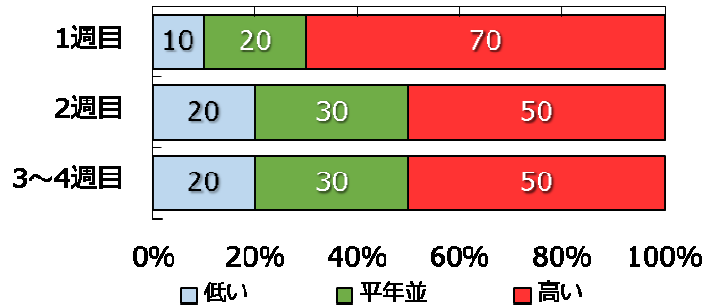


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

- 広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底に取り組んでいます。
- 令和5年度の農薬危害防止講習会は、全日程を終了しました。多数のご参加ありがとうございました。

- PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

掲載アドレス↓
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>



- スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和5年9月中旬ごろです。